



山と人との調和をモチーフに
デザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。

第8回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

【日時】 2009年6月7日（日）

【場所】 ●呉 市：グリーンヒル郷原
●東広島市：憩いの森公園
●廿日市市：もみのき森林公園
●広島市：広島市森林公園
●広島市：広島県緑化センター
●三原市：中央森林公園
●庄原市：四季の森とうじょう
●福山市：ふくやまふれ愛ランド
●三次市：清高の丘

【主催】 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
中国新聞社
中国放送



「緑の募金」助成事業

RCCラフ・グリーンプロジェクト



6月の第1日曜日は
ひろしま「山の日」です。
ようこそ、初夏の里山へ。

第8回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

2009年6月7日(日)開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会／中国新聞社／中国放送

第8回ひろしま「山の日」県民の集い

「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ70%は山です。
全国に誇る里山を有しています。

山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。
山を被る緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。
広島豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ
魚や貝を育てています。

私たちは、6月の第一日曜日を「山の日」とし
「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに
第8回ひろしま「山の日」県民の集いを
ここ呉市・グリーンヒル郷原をメイン会場に、広島県内9カ所の会場で
開催します。

今日の事をきっかけに
ひろしまの里山から
山や森の大切さを理解し行動する人の輪を抜け
山がよくなる運動にしていくことを
宣言します。

2009年6月7日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
実行委員長 堀川保幸

目次

INDEX

1 事業のアウトライン	1
2 各会場の記録	2
(1) 呉市メイン会場：グリーンヒル郷原	2
(2) 東広島市サテライト会場：憩いの森公園	6
(3) 廿日市市サテライト会場：もみのき森林公園	10
(4) 広島市サテライト会場：広島市森林公園	12
(5) 広島市サテライト会場：広島県緑化センター	16
(6) 三原市サテライト会場：中央森林公園	19
(7) 庄原市サテライト会場：四季の森とうじょう	22
(8) 福山市サテライト会場：ふくやまふれ愛ランド	24
(9) 三次市サテライト会場：清高の丘	27
3 実行委員・協力者・団体等	28

■事業のアウトライン

開催主旨 森林や山とかかわるきっかけづくりを目的に、山の手入れ等実体感型プログラムを多く取り入れたひろしま「山の日」県民の集いを、呉市をメイン会場に広島県下あわせて9ヶ所の会場で開催する。

名称 第8回 ひろしま「山の日」県民の集い

日時 2009年6月7日(日)

場所

- メイン会場
呉市会場：グリーンヒル郷原(呉市郷原野路の里2-3-1)
- サテライト会場
東広島市会場：憩いの森公園(東広島市西条町寺家941-17)
廿日市市会場：もみのき森林公園(廿日市市吉和1593-75)
広島市会場：広島市森林公園(広島市東区福田町藤ヶ丸173)
広島市会場：広島県緑化センター(広島市東区福田町166-2)
三原市会場：中央森林公園(三原市本郷町上北方1315)
庄原市会場：四季の森とうじょう(庄原市東城町塩原)
福山市会場：ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町大字赤坂甲545番地)
三次市会場：清高の丘(三次市東酒屋町)

総参加者 約7,000人

主催 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送

後援 林野庁、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、三原市、福山市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、(社)国土緑化推進機構、(社)広島県みどり推進機構、(社)広島県森林協会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、(社)日本山岳会広島支部、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送

協賛 中国木材(株)、西条・山と水の環境機構、神沢精工(株)、(株)ウッドワン、大下土木(株)、(株)KNプランニング、山陽乳業(株)、JAグループ広島、大和重工(株)、(有)武安運送、(株)中電工、(株)デオデオ、中下壽雄、(株)奈良運送、虹村地区自治会、(有)ヒロシ工業、広島県協同組合連絡協議会、(有)松岡建築設計事務所、(株)盛谷、井村土地家屋調査士事務所、(有)小田原ハウジング、折口開発(有)、(有)加賀美組、(株)神垣石油、呉糧配協同組合、小島朗秀司法書士事務所、山陽海運(株)、(株)シーゲートコーポレーション、(有)中国重機、東洋物産商会、増本建設(株)、マツダ(株)、(有)マルホ興産、王子製紙(株)呉工場、呉郷心会、呉商工会議所、呉鉄工業団地協同組合、佐々木鋼材(有)、(社)広島県造園建設業協会、(株)伊原金物店、エンジニアリングヒロ(株)呉支店、九船建設(株)、光和物産(株)、五洋建設(株)中国支店呉事業所、(有)白石組、(株)千成、竹中モーターズ(株)、谷川浩介、帝人(株)三原事業所、(株)寺上組、中村通、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(株)濱田製作所、東中国菱重興産(株)、東広島商工会議所、広島市漁業協同組合、広島商工会議所、ひろしま木材事業協同組合、(株)広島バスセンター、(株)広電建設、藤本修、府中商工会議所、正木敏雄、松岡利弘、みずえ緑地(株)、道方久美枝、向井輝昭、村岡兵衛、(株)有斐園

(順不同)

全体

■参加人数：約600人

【プログラム状況】

30人のメンバーにより実行委員会が編成され、3月から準備が進められました。時間もない、経験も無い、呉市で活動する森林ボランティア団体も少ない等のことから、どうなるのかという不安な声もありましたが、関係者のいい行事にしようとする熱い思いが次第にいい方向に動いたように思います。

山の手入れ、登山道清掃、前夜祭、オープニングセレモニー、初心者のための登山教室、森のネイチャーゲーム、森のつみ木広場など、テーマを見据えた特長のあるプログラムが行われました。また、展示コーナーも、国産材の木組みの展示、ダッチオープン・かまどんの展示、手ノコの展示、GICの活動PR展示、山のHPR展示等充実した内容となりました。

地元の方の飛び入り参加で山の古い道具の展示コーナーも作られ、この地域も人々と山との関わりが深かったこと、里山のくらしが少し前まで営まれていたことが伝わってきました。

また、山と農業は身近な関係にあることから、例年5月の下旬に開かれる、地域の特産品等が集まる「ルート375フェスタ」の行事を山の日にあわせて開催していただきました。

■温かい雰囲気の中にも凛としたオープニングセレモニー
約500人が参加してオープニングセレモニーが行われました。司会は、山原玲子アナウンサーです。

堀川保幸実行委員長(中国木材株式会社代表取締役社長)が、「山の日の今日、この行事に参加した方々の山に対する意識が少しでも高まり山を良くしていこうとする行動に結びつけば山にとって大変大きな力になる」と挨拶。祝辞を3名からいただき、来賓等を紹介しました。

その後、パプコック日立エコクラブよりヘルメット200個と鋸100丁の贈呈式、広島県緑化功労者表彰式、「緑の募金」高額寄付者への感謝状贈呈式がありました。

平成21年度広島県緑化功労者表彰式

- シャープ株式会社福山・三原・広島事業所
シャープグリーンクラブ
- サポート・トレッキング・グループ
「緑の募金」高額寄付者への感謝状贈呈式
- 広島県ゴルフクラブ連盟

自ら希望した地元の郷原小学校6年生の山田君・池田さんが元気よく、しかも気持ちを込めて、ひろしま「山の日」宣言。最後は、「故郷広島山」の全員参加による大合唱、そして「どんぐりコロコロ」を三唱する恒例の安全祈願により、山の日のプログラムに入りました。



▲山の日宣言

■今年は、愛知県や兵庫県など県外からの視察、参加も。今年、県外からの視察や展示への参加がありました。視察は日本山岳会東海支部ボランティア委員長の稲垣正憲さんと、日本山岳会として「山の日」制定に取り組むに当たり、県民主体で取り組んでいるひろしま「山の日」の様子を体感することが目的でした。

また、刃物のまちとして有名な兵庫県三木市から100年の伝統を誇る手ノコのメーカ(神沢精工株式会社)が、約60種類の手ノコを展示。「広島は、森林ボランティア活動が盛んだと聞いていたが、まさにそのような印象、熱気が伝わる」とのことでした。

■来年のメイン会場は、北広島町です。

今年の特徴として、マスメディアやWEBサイトにより、6月の第1日曜日は「山の日」であることを伝えました。それらの広報活動により、問い合わせも例年より随分多くなりました。

山の日の行事をわが町でも、わが地域でも開きたい、そんな声も届くようになりました。

時代の風少し応援されて、来年は6月6日、高原のまち北広島町をメイン会場に、ひろしま「山の日」県民の集いを行う予定です。



▲開会のあいさつをする堀川実行委員長



▲オープニングセレモニー会場



▲広島県緑化功労者表彰式

記録者：ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会事務局 畷崎 辰登

登山道整備・清掃

■参加人数：38人

【プログラム状況】

6/6(土)「山の日」行事の先陣を切って、山岳連盟と地元サポート・トレッキング・グループの合同チーム38人で、中国自然遊歩道を整備しました。

広島文化学園大学(元呉大)裏手の登山口から観農坂を経て、野呂山に至るルートの標高250m地点から650m地点の間を、麓隊と山頂隊の二手に分かれて作業しました。

麓に近い登山道では横断溝に溜った土砂をスコップと鍬で取り除きました。また所々道を塞ぐ倒木や生い茂る下草を、鎌や鋸を駆使して整備した結果、明るく快適な登山道に整備できました。

途中で笹ユリや山アジサイ等珍しい草花が綺麗に咲いており心が癒される場面も…。名古屋から特別参加の山仲間の稲垣さんも先頭に立って汗を流されました。合間に食べた昼飯は実に旨かったですね!



▲麓隊：登山道を遮断していた倒木を切り開く ▲山頂隊：道に生い茂る草や雑木を刈り取る
記録者：広島県山岳連盟 普及部 副部長 遠藤 勇人

前夜祭

■参加人数：53人

【プログラム状況】

「山の日」前夜祭は、6/6(土)18時から会場内のバーベキューハウスで山岳連盟関係者・実行委員会の53人が参加し、宇山さんの司会で盛大に開催されました。

プログラムは広島県山岳連盟の京才会長の挨拶、そして伊藤副実行委員長の乾杯の音頭で幕を開け、実行委員会、山岳連盟各加盟団体の皆が自己紹介や山に対する熱い思いを披露しました。今年もアコーディオン演奏を栗田さんをお願いして「故郷広島山」など多くの歌を合唱し、前夜祭を一層盛り上げることが出来ました。

20時には会を中締めとしましたが、多くの方が会場に残り、マツダ、パプコック日立の皆さまにお世話いただいた料理を肴に、お酒を酌み交わす語らいはその後も続き、夜が更けるのも忘れる熱い交流会になりました。



▲バーベキューハウスが前夜祭の会場 ▲各テーブルで交流が行われた
記録者：広島県山岳連盟 普及部 副部長 永津 信吉

山のグラウンドワーク

■参加人数：298人

【プログラム状況】

山の手入れ参加者298人を15班にして、黒瀬森林組合の人を班長にA地区とB地区に分かれて呉市の山林の手入れを行った。参加者は最大200人と予想していましたが沢山参加していただき、鋸が不足するので交代で使用するをお断りして、10時35分作業地点へ出発。何十年も手の入らない林や藪のような林を明るく開放的な林に変身させることが出来た。業者が整備すれば相当な経費がかかると思う。

午前の部でA地区の整備をほぼ終えた。昼食後、13時より日立エコクラブの73人を除いてみんなでB地区(高圧送電線下)のグラウンドワークに集中した。

予想以上に山の整備が早く出来たので予定時間を30分早めて終了を宣言。参加者全員が林から去ったあと、森林組合の班長4人が鋸で切れなかった枯松はチェーンソーを駆使して伐採・切断・玉切りをして仕上げた。

参加者は、閉会式までの時間に司会者からグラウンドワーク参加への感想をいろいろとインタビューされたり、テント内に展示されたものを見たり、説明を聞いたりした。



▲山のグラウンドワークの様子



▲地元の子どもたちも参加した



▲15班に分かれて山の手入れを行う

記録者：サポート・トレッキング・グループ 会長 宮岡 泰久

初心者のための登山教室

■参加人数：23人

【プログラム状況】

「山の日」運動に対する(社)日本山岳会独自の取り組みとして、初心者のための登山教室を初めて行なった。当日は里山ハイキングと初級登山教室を行ない、小学生を含む受講者18人と講師・スタッフ5人の計23人が初夏の登山を楽しんだ。

広島文化学園大学裏の登山口に車で移動後、初級隊7人が先行し、里山隊16人がゆっくりと続いた。ルートは前日広島県山岳連盟が整備した中国自然歩道で、歩きやすく木陰に吹き渡る涼風が心地よい。道端のつつじ、笹ゆりや山アジサイに心が癒された。

峠手前の林道出合いで昼食後、初級隊は723m峰に登頂、里山隊は林道で下界の展望を楽しんだ。「登山と健康」「山の歩き方」を講義後、全員が無事下山して閉会式会場へ向った。

今回のルートは一般に紹介されていなくて登山者も少なく、静かな木陰の中マイナスイオンを一杯吸い込んで気持ちの良い登山だった。



▲前日に整備された中国自然歩道を登る参加者 ▲昼食後「登山と健康」をアポイントレッスン
記録者：(社)日本山岳会広島支部 登山講座委員長 野島 信隆

森のネイチャーゲーム

■参加人数：18人

【プログラム状況】

午前中は会場のはずれで、耳をすませてまわりから聞こえてくる音を聞き取る「音いくつ」と言うアクティビティをしました。

会場からの音が大きかったのですが、なんとか気持ちを集中して、鳥の音が聞き取ることができました。その後で南方面の林へ行き自然の宝物を探す「フィールドビンゴ」を行いました。オオキンケイギク、ナガミヒナゲシ、カナリクサヨシなどの外来種が多く入り込んでいました。

林の中にはキウイの萼やレモンバームも生えていました。いいにおい、ちくちくするもの、黄色い花など6月7日のグリーンヒルの自然からのメッセージを受け取ることができました。



▲自然からのメッセージ発見

最後は、「びゅんびゅんゴマ」を子どもも大人も一緒に回して遊び、参加記念品としてプレゼントしました。大きなコマ、2連のコマ、四角形のコマなどいろんなコマを回

すことにもチャレンジしました。また、他のプログラムに参加していた子どもにも「びゅんびゅんゴマ」をあげて遊んでもらいました。

午後は別のアクティビティを用意していましたが、参加者はいませんでした。



▲四角いびゅんびゅんゴマ回し

記録者：広島県ネイチャーゲーム協会 新庄 隆通

森のつみ木広場

■参加人数：112人

【プログラム状況】

ヒノキの間伐材を利用したつみ木(台形・真四角・長方形の3種類・1万ピース)を使った造形遊びの中から、集中してものを作る楽しさや互いに協力しあうことの大切さを学ぶ活動です。

午前・午後の2回、それぞれ45人・60人が参加。まず、つみ木の生みの親である森の現状や大切さを解りやすく伝える紙芝居からスタートした後、「つみ木のシャワー」で一気に活気づいた参加者は、赤い絨毯の上で、思い思いにまた真剣な瞳で一つ一つ一生懸命に積み上げ、最後は皆の作品をつなぎ合わせて「つみ木の王国」を完成します。

それぞれの作品に拍手を送り、つみ木に「ありがとう」を言った後、優しく崩しお片付けして、1時間半のつみ木広場の終了です。



▲思いがけない「シャワー」に大歓声



▲皆の力が合わさった「王国」の完成

記録者：(財)オイスカ 広島支局 竹田 幸雄

手ノコ「SAMURAI」展示

■参加人数：多数

【プログラム状況】

この度、ひろしま「山の日」県民の集いの展示プログラムに参加させて頂きました。

弊社は森林、造園、果樹園等で使用される鋸の専門メーカーとして、世界47ヶ国に「サムライ」のブランドで鋸を輸出し、信頼を頂いております。この度初めて国内販売をするにあたり、販路拡大の足がかりとさせて頂き感謝しております。

ポスターパネルの展示ボードや看板等、テントの設営に至るまで、お世話いただいた実行委員会に改めて感謝致します。また、バブコック日立エコークラブ様には手鋸もご購入頂きました。地元の尾道にも鋸刃のメーカーや関連企業としては広島市にあるチェーンソーメーカーがあり、また、開催地の呉市はヤスリで有名です。

これらのメーカー様を差し置いて展示プログラムに参加させて頂き有難う御座いました。

実際、グラウンドワーク(手入れ)にも同伴させて頂き、子ども達や休みを返上しての会社員の方々、手際の良いボランティアと思われる熟練者も班長の指示のもとで作業が進んでいました。午後からは森林組合の方々によるチェーンソーでの枯木伐採が行われました。これらの連携プレーで郷原の里山が見事によみがえって、地球環境の保全に皆様のご活躍されている姿を拝見し、感動いたしました。

他の会場でも同じ事が実施されたものと推察されます。ひろしま「山の日」を通じ、森の新鮮な空気に触れ、全員参加により、子々孫々まで自然環境を育む環境が維持継続していくことを肌で感じました。私達も何が出来るとは判りませんが、環境に取り組む「芽」を育てて行きたいと痛感いたしました。

展示場では知名度のない弊社の鋸刃にも関心を持って頂き、御購入も頂きました。短時間で沢山の人がお見えになったので、充分ご説明出来なかったところもあり、配置人員が少なかつたものと反省しております。今後再びお招きに預かることがありましたら、「金物の町・三木」代表として、弊社の鋸刃をご提供し、参加させて頂きます。



記録者：神沢精工株式会社 神沢 裕規

国産材「木組み」の展示等

■参加人数：多数

【プログラム状況】

会場の展示コーナーには、国産材の「木組み」展示(中国木材株式会社)、かまどん・ダッチオープン展示(大和重工株式会社)、ひろしま緑づくりインフォメーションセンターの活動の展示、ひろしま「山の日」県民の集いのポスターパネルの展示、地元から飛び入り参加で古い山の道具の展示コーナーもつくられ熱心に見学をする人の姿も目立ちました。



▲国産材「木組み」の展示(中国木材株式会社)



▲地元からの飛び入り展示、山の古い道具



▲大型の「かまどん」の展示(大和重工株式会社)

記録者：事務局 欽崎 辰登

全体

■参加人数：約290人
【プログラム状況】

6月7日(日)早朝、東広島市憩いの森公園は、前日会場設営の途中に降りだした局地的な大雨の影響もなく、空も芝生も青々としていました。10月開催の時のように西条柿は売っておらず、参加を見送られたプログラムもありましたが、近畿大学のボランティアサークルの初参加、子ども向けのプログラムをと森林組合が丸太切り体験コーナーを開いていただけなど、新たな動きも見られました。

天気が良すぎたのか、慣れない山仕事で疲れたのか、グラウンドワークの参加者は午前中の作業を終えたと弁当を持って日陰に隠れてしまいましたが、太陽が曇(かさ)を被ったり、珍しい蝶が現れたりとか何か不思議なチッパーシュレッダーの音が大きく響く山の日の集いでした。



▲会場の様子



▲安全祈願



▲全員で記念写真

記録者:事務局長 船本 昌義

山のグラウンドワーク

■参加人数：65人
【プログラム状況】

今回は、シャープの従業員とその家族約150人を筆頭に、地元のボランティア団体、企業グループ、広島大学、近畿大学の学生ボランティア、西条農業高校の生徒、市民等幅広い参加者を得て、公園内のオートキャンプ場付近の龍王山のふもとの里山を手入れました。

地元森林組合の技師や西条・山と水の環境機構の関係者が班長となり、大きな木の枝は炭焼き用の材として、葉っぱはなるべく山に残し腐葉土として、その他の細い樹はチッパーシュレッダーでチップにして堆肥として活用するよう参加者に指導しながら手入れ作業を行いました。

遊歩道が整備されており、トラックやチッパーシュレッダーが現場近くまで入ることができましたので、午前中の短い時間ながら効率的に除伐した材を運び出すことができました。作業も終わる頃には遊歩道から会場の芝生広場が良く見えるようになり、山に陽が差し込むようになりました。



▲山のグラウンドワークの様子



<感想~山のグラウンドワークに参加して>

西条農業高等学校等の若い人から、年配の方まで参加者の年齢層が幅広いことは、今後の山のグラウンドワーク活動を多くの方に認識していただき、活性化していくためにはよいことと思います。

今後の要望としては、若い家族連れの参加者は、親子も森林に親しむ機会が少なく、例えばウルシの木の存在や皮膚がかぶれる等の知識にも欠けていますので、次回からは森林に入っただけの重要な知識を分かりやすく現場で説明していただけたら良いと思います。また、今回炭焼きを行っていただきましたが、こちらについてもせっかくなので今の若い世代に向けて炭焼きの作業説明等をいただけたらよかったです。

記録者:シャープグリーンクラブ(SGC) 原田 弘

活動展示及び山のグラウンドワーク 西条農業高等学校

■参加人数：約15人
【プログラム状況】

西条農業高校は、山のグラウンドワークに園芸科3年生が2人、緑地土木科1年生が11人、引率教員2人の合計15人が参加しました。

このうち、生徒13人は全員が初参加であり、最初は急斜面を伝って薄暗い藪の中に入っていくことに戸惑っていましたが、伐採が進むにつれて見通しがきくようになり、いい汗をかいた後は何かしら達成感を覚えているようでした。

一方、展示会場では、西条農業高校の七つの学科紹介をはじめ、山のグラウンドワークで毎回お世話になっている緑地土木科の学習状況を写真パネルで紹介しました。緑地土木科の1年生が交代で説明役を務めました。入学して日も浅く学校のことをよく知らないのに、来場者の質問にうまく答えられるかどうかドキドキでした。



▲伐採の様子



▲来場者に説明をしている1年生

記録者:広島県立西条農業高等学校 垣 幸宏

シャープグリーンクラブ環境展示会

■参加人数：多数
【プログラム状況】

呉会場(中国木材)様よりご提供いただきました掲示板のお陰で、SGC事務局が準備した展示物を全て展示することができました。今後も参加者や地域の方を中心に一人でも多くの方に見て頂くよう工夫していきます。

今回の展示を行うことは、地域の環境活動に貢献すると共に、参加者全員の環境に対する意識の向上を図ることができました。

そのためにも作業前に開会式において、各テントで開催している展示会及びイベントに、参加者に興味を持って参加していただくよう、より一層の強力な宣伝を実行委員会にはお願いしたいと思います。



▲展示の様子



記録者:シャープグリーンクラブ(SGC) 原田 弘

山のグラウンドワークチッパー機の安全操作講習会

■参加人数：約12人
【プログラム状況】

午前中の全体スケジュールに続き、西条・山と水の環境機構が保有するチッパー機(大型1台・小型1台)について、安全操作講習会を約1時間にわたり実施。一般からの参加者1人を含む11人が参加されました。

特に今回新規に導入された小型機は、竹使用貸出しが見込めるため、これを中心に説明をしました。説明については、次のような項目について行いました。

1. 作業時の服装
特にチッパー機を操作する場合について、ヘルメット、ゴーグル、手袋、安全靴などの大切さを説明。
2. チッパー機基本性能と特徴
大型機と小型機の性能比較、使用燃料、木と竹のチップ化時の適応性など説明。
3. 操作方法と注意事項
始動、走行、破砕、緊急停止、投入時の注意事項、排出方向と風向きなど説明。
4. よくあるトラブルと対策
石・針金などの混入による刃物破損。フィルターの目詰まりによるパワーロス。送り不能及び停止時の要因と対策など、通常使用において発生する事項について説明。
5. 日常の保守点検

以上につき一通り説明し、希望者による実験をしてもらいました。参加者から興味を持たれた「安全装置」「破砕構造」「刃物の耐久性」などについては、特に重点を置きました。

大型機と小型機、二台を同時に実演することで、能力の違いなども実感してもらえたと思います。

<感想>

限られた時間での説明で、十分ではなかったと思われるかもしれませんが、回を重ねることで実作業での技術習得に繋がっていただきたいと希望します。

- (1) 安全・安心作業のための応用技術
- (2) オペレーター育成によるチッパー機レンタル需要の拡大
- (3) チップの有効利用による地域の環境整備と地域おこし

今回多くの方にチッパー機の使用現場を見ていただき、今まで以上に身近に感じられたと思います。



▲熱心に話を聞く参加者



記録者:フジ・エコテック 藤川 信也

山のネイチャーゲーム

■参加人数：約50人+緑の少年団スタッフ
【プログラム状況】

午前中は緑の少年団を案内しました。まず、班ごとに自然観察に関わる課題を出して、それを調べながら次の集合場所に移動、その後、「めかくしイモムシ」を行いました。参加者が目かくしして班ごとに列になって歩くもので、鳥の声や水の音に耳をすませました。

みよりの広場に到着後、「森の美術館」という活動を行いました。1人1枚のフレーム(スライドのマウント)を持って、気に入った対象をフレームにおさめてタイトルを付けました。班ごとに自分たちのコーナーをつくって、完成した物をそれぞれ見て回りました。

参加した子どもは、静かに自然を味わったかどうかはともかく、のびのびと時間をすごしたように思えました。



▲目かくしをして林の中を歩く



▲小さな絵になる物は何かないかな

記録者：広島ネイチャーゲーム協会 浅野 敏久

森の野鳥観察会

■参加人数：50人
【プログラム状況】

受付テントには、シジュウカラの営巣した巣箱と写真が展示され、多くの方々の注目を引きました。野鳥観察は好天候に恵まれ、午前と午後の2回行いましたが、午後の部は終了時刻の繰り上げに伴い観察時間が短くなりました。各回とも一般の方は家族での参加が多く、フィールドスコープでホオジロやカワラヒワを観た時は歓声が上がリ、途中、ヤマボウシ、ネジキの白い花や、キキョウソウの可憐な花、オオヤマトンボの羽化の様子など、樹木、植物、昆虫なども観察しました。

<観察した鳥>

ホオジロ、カワラヒワ、ツバメ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、カラス、スズメ、キジバト。
声：ウグイス、コゲラ、メジロ。



記録者：東広島の野鳥と自然に親しむ会 濱田 嘉之

おばあちゃんのつくる自然派虫除けスプレー

■参加人数：13人
【プログラム状況】

午前中私たちのテントでは参加者もなく、とても静かでした。午後にグラウンドワークを終えた人々が、ハーブティで寛いで下さいました。

“虫除けスプレー”は興味を持たれた人もありますが、出来ませんでした。

時間のたくさんあった一日でした。お陰でかねてから見たかった炭焼きの煙の色の変化を見る事が出来、また、炭に関する話も聞けてよかったです。あの透明な青紫色の煙の美しかったこと!!

来年は宮崎の大学で植物を勉強するという西条農業高校の生徒さんとの会話も楽しいものでした。



記録者：憩いの森ハーブ研究会 高見 京

山仕事の道具屋さんー親子で丸太切りに挑戦

■参加人数：19人
【プログラム状況】

今回新たな取り組みとして、実行委員会と賀茂地方森林組合の共同企画で、親子向けの丸太切り体験コーナーをつくりました。

午前4組、午後1組と参加者は少なかったのですが、子どもたちが懸命にノコギリをひき、それを親御さんや森林組合のおじさんたちが見守ったり、応援したりする姿は微笑ましいものでした。

頬をふくらませ、真っ赤になってノコを引く男の子、「船を作るんだ」といって、丸太を縦に切ろうと奮闘する子など、さまざまな子どもの姿が見れたことはとてもよい気持ちになりました。

来年はもっと多くの子どもたちが参加できるよう、グラウンドワークのプログラムに組み込むことも検討したいと思います。



記録者：事務局長 船本 昌義

ペレットストーブの実演・展示 バイオマスボイラーのパネル展示

■参加人数：多数
【プログラム状況】

この度は、3回目の参加をさせていただきました。回を重ねるごとに参加者の人数も増え、里山整備に関心を持つ人たちが増えてきたのを感じます。

山の手入れが午前中で終わったこともあり、その前後は各部ブースとも人出もまばらでしたが、ペレットストーブもかなり浸透してきたのではないのでしょうか。お昼時には、パーベキューグリルヒーター「きりん君」で、ピザやお好み焼き、ピラフなどを調理しお客様に食べていただきました。

広島大学の佐藤高晴先生にもマイきりん君を出していただき、お手製のナンを焼きました。東広島の企業様が小規模のバイオマスタウン構想を考えられてると聞いていますので、是非実現に向けて一緒に活動できたらと思います。ありがとうございました。



◀日景現象ときりん君

記録者：ヤマノイ株式会社 山野井 重典

全体

■参加人数：約2,000人

【プログラム状況】

初夏の爽やかな青空の下、もみのき森林公園（廿日市市会場）で第8回ひろしま「山の日」県民の集いの行事を開催した。

天候に恵まれたことや企業の運動会等で2,000人の来園者であったが、「山の日」のイベント目的の人が少なかったように感じた。

開会式は、大久保ひろしま「山の日」県民の集い廿日市副実行委員長の「山の日宣言」で始まり、恒例の安全祈願である「どんぐりころころ」を関係者と参加者で大発声をし、作業の安全と各種のプログラムの成功を祈った。

ひろしま「山の日」県民の集いの横断幕は、公園利用客の一番目に入る場所に掲示し、告知活動に努めた。また、公園利用客に「山の日」の周知の徹底と各プログラムに参加してもらうよう公園の放送施設を利用して、告知活動を3回行った。

この日、もみのき森林公園ではメインプログラムの「もみのき湿原の保全とさくらの森を再生しよう」を実施した。この活動の運営は、GIC加盟の広島県森林インストラクター連絡協議会、阿品の森サポータークラブが行なった。（参加人数20人）

その他のプログラムとしては「親子でピザを楽しむ会」「森のクラフト教室」「森のネイチャーゲーム」「新緑のもみのき森林公園・自然観察会」「魚のつかみ取り」の5プログラムを実施し、また、ファミリーに楽しんでもらう無料の乗り物を提供し、好評を得た。

記録者：もみのき森林公園 梅田 育



▲山の日開会式



▲クラフト教室の様子



▲無料の乗り物

「もみのき湿原」の保全と「さくらの森」を再生しよう

■参加人数：約20人

【プログラム状況】

もみのき湿原は、平成11年、GIC第1回交流事業である小室井山に通じる遊歩道整備の際に発見されたもので、翌年12年から5年間、GIC加盟団体の交流を図るための協働の活動場所として湿原保全活動が行われた。

この間の活動によって、湿地固有の動植物が観察されるようになった。

この湿原を自然体験や環境学習の場として有効活用するため、また、常時ぬかるんでいた歩道を歩きやすくするため、木道を40m設置し、さらに湿原隣接の「さくらの森」再生に向けて灌木類の除伐をした。

「木道設置」は組立と設置の2班による流れ作業で実施した。組立班は、部材（長さ2mヒノキ板材2枚とヒノキ枕木3本：防腐剤塗装済）を10cmの釘により6人がかりで2mの長さの木道に仕立てた。設置班は、2mの長さの木道を既存歩道の線形に沿わせながら小石で水平を調節する繊細な作業であった。

「灌木類の除伐」は、サクラの木を中心に残し湿原歩道沿いの灌木類を整理した。

以上、準備・段取りとも最高で、手際よく、時間内に終わることができた。



記録者：阿品の森サポータークラブ 沖田 日出男

森のネイチャーゲーム

■参加人数：37人

【プログラム状況】

天候にも恵まれて、すがすがしい風が吹き、緑の溢れる「もみのき森林公園」でネイチャーゲームを実施した。

また、会場は花の季節でもあり、心安らぐ季節を満喫することができた。

午前中は幼児を中心に参加者もあったが、午後からは青年から高齢の方を中心に参加され、楽しい時間を過ごした。

内容は、季節を感じることを中心に取り組むとともに、虫の不思議として擬態を体験してもらった。

<内容>

○色いくつ

身近な花や季節感ある自然の色を感じてもらった。

○カモフラージュ

コースに沿って置かれた人工物を探し出す。



▲カモフラージュの様子

記録者：広島県ネイチャーゲーム協会 秋山 浩三

全体

■参加人数：約1,507人
【プログラム状況】

当日は、曇天で気を揉む天気にも関わらず、朝早くから大勢の方に集まって頂きました。9時15分より開会式を始め、見勢井運営委員長による「山の日」宣言に続いて、8つのプログラム紹介を行い各会場へ向かって頂きました。

プログラムとしては、隣の広島県緑化センターとの共催で無料送迎バスを用意した「スタンプラリー」を実施して両会場からの参加者で賑わいました。また、クイズラリー方式でトレッキングできる常設コース「グリーンアドベンチャー」では親子連れが目立つプログラムとなっています。「山の手入れ」は松林の除伐作業で林内も明るく見違えるほどきれいになり、恒例の「親子でテーブルをつくろう」は出来具合も良く楽しんでもらえました。6月という事で「モリアオガエル観察」を行い、現地で生きた教材をもとに観察をして活発な質問を受けました。「産直市」では、北広島町から新鮮野菜、特産物の即売で多くの方々に喜んで頂き、「ネイチャーゲーム」や「自然観察会」では、様々な体験を通じて参加者に自然を楽しんでもらえました。

いちばん近い森の国として、山や森の大切さを理解し行動する事の重要性を再確認いただけたと思います。

最後に、スタッフや団体関係者の皆様に支えられ、無事閉会を迎えられた事に感謝申し上げます。

記録者：広島市森林公園 園長 鎌田 博

森林公園内の山の手入れ

■参加人数：23人
【プログラム状況】

申込者は意外と少なく子供3人と大人16人の19人だった。パンフレットの配布方法など課題も残ったイベントの一つであった。

9時半に集合した19人のみなさんはヘルメット・ノコを装着後4班に分かれ、それぞれに指導者を配置。山の手入れの必要性や樹木の枝により切ってもよいものと残すものを説明後、作業現場に移動。わずか2時間程度の作業であったが、林内は光がさし見違えるほどきれいになった。

参加者からは「子供がノコを使い楽しんで作業をしました」「おかげで気持ちのよい汗をかきました」「普段の運動不足を痛感したが機会があればまた参加したい」と嬉しい発言もありました。



▲松林の除伐作業で林内も明るく

記録者：もりメイト倶楽部Hiroshima 見勢井 誠

親子森林「モリアオガエル」観察

■参加人数：43人
【プログラム状況】

○講師：沖野成視（昆虫館友の会）
金本秀之（昆虫館学芸員）
○実施時間：10:00～12:00（約2時間）

最初の15分程は、沖野講師のテキストをもとに説明を行い、その後現地（水の広場）に行きモリアオガエルの卵塊約20個と池の生物（ヤモリ、ヤゴ等）の観察を行った。

前日の降雨でたくさんの卵塊ができた。前の週に捕獲した親（オス・メス一対）と卵塊からかえったオタマジャクシや昆虫館からアマガエルなども持参していただき生きた教材にした。

沖野講師の説明を受けて、長靴に履き替え、林業体験広場から現地まで5分歩いて池の淵まで入り込んで自然の生物に興味深く観察した。卵塊と池の生物（イモリやヤゴなど）を講師の話の聞きながらの観察となった。昆虫好きの親子が多く、熱心に講師の話の聞いていた。

現地から体験棟に帰って質疑の時間を設けたが、活発な質問が出ていた。みなさんたいへん満足して林業体験広場をあとにされた。



▲前日の雨でたくさんの卵塊ができた



▲モリアオガエルにちょっとだけさわられた

記録者：広島市森林公園 桑田 荘一郎

グリーンアドベンチャー

■参加人数：59人
【プログラム状況】

本コースは「管理ボランティア森守」が中心となって昨年末に整備新設されたもので森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースである。

延長2,150m、標高差150mの林間コース内に18問を設置してある。

コース内は雑木林、人工林、モミジ植栽林、溪流園路、つり橋など変化に富んでおり、クイズの問題は自然に関するものが主体でやや難しいのか全問正解は少ない。

3月より月例開催している人気イベントでこれまでに述べ430人が参加されているが、当日は通常よりも参加者が少なく残念であった。



▲公園管理センター前の受付テント



▲コースの問題に挑戦する家族



▲コースを回り終わって答え合わせ

記録者：広島市森林公園 富士澤 隆

親子でテーブルをつくろう

■参加人数：76人

【プログラム状況】

間伐材の利用について理解を深めてもらうため、間伐材を使ったテーブル作りを行った。

午前(9時~12時)に12家族、午後(12時30分~15時)に9家族の参加があり、指導員(もりメイト倶楽部 Hiroshima)から作製手順と道具の使い方の説明を受けた後、作業に取り掛かった。

普段、鋸や電動ドライバーなどの工作道具に使い慣れていない参加者も多く、また、開始時間から遅れて参加した家族もあったが、指導員の助けを借りながら、家族が協力して作業を行い、全家族が予定どおり時間内に完成できた。

テーブルの出来具合も良く、家族で体験できたことに皆さん満足されていた。また、テーブル完成後に行った焼き印(森からの贈物「間伐材」市民参加の森林づくり)と森のクイズも楽しんでもらった。



▲手順を確認して作成開始



▲完成まであともう少し

記録者:市民参加の森林づくり実行委員会 森田 裕行

森林公園内の自然観察会

■参加人数：20人

【プログラム状況】

広島市森林公園内を自然観察しながら散策した。コースは「芝生広場~メルヘンの森~林道~第二駐車場~芝生広場」とした。

花が見頃のウツギ、ヤマツツジ、ハンショウヅルや、シカに樹皮を食われたリョウブ、クマシデの尾状花序、ケヤキ、クリなど、植物の様子や特徴を紹介した。また、複葉クイズ「葉っぱは何枚?」では答えとともに単葉と複葉の違いや葉の仕組みを解説した。

双眼鏡を使って遠景を眺めたり、通称はがきの木と呼ばれるタラヨウの葉にクギを使って字を書いたり、ガムのような味がするタムシバの葉を噛んだり、カジイチゴやソメイヨシノの実を試食したり等、様々な体験を通じて参加者に自然と親しんでもらえた。



▲クマシデ尾状花序の観察



▲複葉クイズ葉っぱは何枚?



▲クリの解説

記録者:広島市東区役所区政振興課 鈴木 由貴子

森のネイチャーゲーム

■参加人数：45人

【プログラム状況】

○講師：広島県ネイチャーゲーム協会

13時からと15時からの2回に分けて開催した。グループに分かれてヒントの書かれたカードを引いて動物の名前を当てる「動物ヒントリレー」、目隠しをしてイモムシのように数珠つなぎになって歩き、草地や舗装地、日なたや日陰の違いを手肌で感じる「目隠しイモムシ」、植え込みに隠した人工物を探す「カモフラージュ」など前半、後半とも3つずつのプログラムを約1時間かけて実施した。

「ネイチャーゲームは何をするのですか?」と最初に言われる方が多く、初めは子どもだけ参加させて遠巻きに見ているだけの親御さんもおられたが、見ているうちに楽しそうになり、最後は一緒に参加して親子共々、参加者全員が楽しんで帰られた。



▲隠した人工物は見つかったかな?



▲木の鼓動は聞こえたかな?

記録者:広島市森林公園 隅田 誠

北広島町産直市

■参加人数：181人

【プログラム状況】

北広島町の道の駅、舞ロードIC千代田から特産物、新鮮野菜、花苗を持ち込んで頂き、公園の管理センター東側のデッキにて初めて「産直市」を開催して頂きました。

準備期間も少なく、しかも今話題の「壬生の花田植え」と同時開催でしたが、174人の来園者の方々に喜んで買って頂きました。



▲購入者の方々に賑わう市場

記録者:広島市森林公園 園長 鎌田 博

スタンプラリー

■参加人数：91人

【プログラム状況】

広島県緑化センターと共催して、スタンプラリーを実施した。広島市森林公園のコースは、芝生広場~こんちゅう館前~メルヘンの森の3つのスタンプポイントを設置して、園内を楽しく散策していただいた。参加者にはスタンプラリー賞として景品を配布した。

緑化センターから森林公園間のシャトルバス運行効果によって、緑化センターより31人の参加があった。



▲スタンプラリーの様子

記録者:広島市森林公園 川原 崇義

全体

■参加人数：約950人

【プログラム状況】

広島県緑化センター会場では、レストハウス前空き地をメイン会場として行事を行った。

10時に正本実行委員長の挨拶、地元老年会児玉会長祝辞の後、「可部緑の少年団」による「山の日宣言」で開会した。

山のグラウンドワークは、地元福田老年会や緑の少年団、ふれあい湧のメンバー約80人が参加して、「集いの広場」周りの植栽、記念植樹と障害木の除伐を行った。

初めて取り入れた広島市森林公園間をつなぐスタンプラリーも好評で、双方併せ140人の参加を得た。

メイン会場では、ネイチャーゲーム、クイズラリー、丸太切り、寄せ植え教室、カブトムシ幼虫プレゼントなどを行った。また新しく「囲碁」自由対局も試みた。

午後3時終了前には、飾花のプレゼントで来園者の明るい顔が印象的であった。お楽しみにバルーンアートの大道芸を用意していたが、飛び入りの友情出演で、藤原歌劇団のオペラ歌手味香友子さんの美声や原田さんグループのホルン演奏も「山の日」に来場頂いた参加者に相応しい雰囲気を出していた。

終日好天に恵まれ、950人近い来園者で賑わった一日であった。

記録者：広島県緑化センター 正本 良忠



▲山の日宣言



▲カブトムシの幼虫プレゼント



▲ネイチャーゲーム

集いの広場の記念植樹

■参加人数：65人

【プログラム状況】

以前「埋立広場」と称していた約8,000㎡の広場が整備され、集いの広場と改称して、グランドゴルフ場としても利用可能になった。これを記念してサクラの苗を含め23本の記念植樹を行なった。

参加者は地元の福田老年会・小河原自治会・白木愛山会のメンバーが中心であった。特筆すべきは、東区・安佐北区のそれぞれ地元の地域で活動する方々が、地域にある施設を共に良くしようと参加されたことである。

今後も各種のイベントを通じこうしたつながりを広めることが大切と思う。



記録者：ふれあい湧 田村 昌嗣

集いの広場周辺除伐

■参加人数：約15人

【プログラム状況】

集いの広場から、展望広場への法面には、喬木に混じって灌木が密集している。

この灌木類を中心に除伐を行い、周辺の風通しを良くした。

参加は、可部みどりの少年団の団員たちで、山の日宣言を終えて現地まで移動し、ふれあい湧メンバーの指導の下、除伐を行った。

みどりの少年団も除伐経験は乏しいので、新鮮な取り組みとして、嬉々とし作業した。



記録者：ふれあい湧 田村 昌嗣

丸太切り体験

■参加人数：83人

【プログラム状況】

レストハウス前の駐車場に檜の丸太を据え、希望者がノコで輪切りの体験をした。切った材は持ち帰り、入浴の香料にも使えるとあって、入れ替わり立ち代りでにぎわった。「平素鋸を使う経験が無いので」という親に見守られながら汗を流す子ども達の姿はほほえましいものであった。

こうした体を動かし自然の材に触れる機会を持つよう工夫したいと感じた。



記録者：ふれあい湧 川崎 誠治

広島市森林公園をつなぐスタンプラリー

■参加人数：142人

【プログラム状況】

今回はじめて、隣の広島市森林公園との間を繋ぐスタンプラリーを行なった。

緑化センターは第5駐車場、森林公園は第2駐車場をそれぞれ発着とし、その間を無料シャトルバスで繋いだ。スタンプは各3ヶ所とし、全コースが30～40分で収まるように配置した。なお、スタンプ箇所は、目印を大きな樹木として、自然に木を覚えられるようにも配慮した。

参加者は緑化センター発が60人、森林公園発が80人名であった。参加者には木で作ったはがき等が渡された。

近くにある公園を利用者に実感していただくことにより、今後両園の利用に寄与できると思う。今後もこうした企画を加えたいと思う。



記録者：広島県緑化センター 正本 良忠

クイズラリー

■参加人数：62人

【プログラム状況】

園内3箇所の設問場所を設け、全回答者に景品を提供した。

クイズの内容は比較的簡単なものにしたが、設置場所とクイズの内容で緑化センターへの理解が高まるものにした。

また、平素足を運ばないようなところもあり、園全体を知る手がかりとなるよう工夫した。

記録者：広島県緑化センター 正本 良忠

プランター寄せ植え教室

■参加人数：33人

【プログラム状況】

草花に寄せ植え教室の指導を行なった。

プランターに草花を4〜5株を寄せて完成させるもので、参加者は改良土の量、草花の色や大きさの配置、仕上がり等に工夫を凝らしていた。

近年こうした寄せ植えに慣れておられるのか、なかなか出来栄が多く、満足げに作品を持ち帰っておられた。

記録者：みずえ緑地(株) 山根 道廣

飾花プレゼント

■参加人数：103人

【プログラム状況】

終了前に飾花を無料プレゼントした。

草花のプレゼントは人気が高く、それを楽しみに最後まで参加される方もあった。

記録者：みずえ緑地(株) 山根 道廣

バルーンアート大道芸

■参加人数：約600人

【プログラム状況】

バルーンアート大道芸。飛び入りホルン。飛び入り歌曲を行った。

○バルーンアートによる、ショーを披露した。子どもに人気が高く風船でつぎつぎに生み出されるウサギやトリ、ハナなどに演者も汗だくだった。

○ホルン演奏者も飛び入りで披露された。アルプスの高原を流れる流暢な調べが会場を沸かせた。

○プロのソプラノ歌手味香友子さんが飛び入りで歌曲を歌った。

「蝶々夫人」の「ある晴れた日に」や「乾杯の歌」等会場からのリクエストに応えられた。

楽しいイベントは来園者増には欠かせないものと思う。



記録者：広島県緑化センター 正本 良忠

三原市サテライト会場 | 中央森林公園

全体

■参加人数：約1,000人

【プログラム状況】

6月7日、初夏の爽やかな青空の下、中央森林公園センター前広場で第8回ひろしま「山の日」県民の集いinみはらが開催された。この日、メインの「里山の手入れ」と木の文化体験コーナーでは、「炭焼き体験コーナー」「チェーンソーアート実演ショー」「木工・グラフト体験コーナー」「丸太切り大会」「森のネイチャーゲーム」「魔法の風呂敷体験コーナー」「森のコンサート」「行政ボランティア紹介コーナー」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」など11種類のプログラムを実施した。

当会場の特色は地元関係者をはじめ企業グループや緑の少年団、自転車競技大会へ参加の選手や応援の家族など県内外の参加があったこと、「2009年ミスやっさ」2人が激励参加したことであった。

開会式は小川副実行委員長が「今日は里山との対話を十分楽しんでほしい」との挨拶で幕を開けた。祝辞は、三原市長(渡邊経済部長)さんにいただき、来賓として三原市議会高下議長他5人の出席をいただいた。

「山の日」宣言は、上北方なしわ緑の少年団(川崎君、景山君)が行い、元気なすばらしい宣誓であった。

メインプログラムの「里山の手入れ」をはじめ、午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者、デュアスロン大会に参加の選手や応援の家族などが加わり、お祭の雰囲気最高に盛り上がり、多くの家族連れ(1,000人)で終日賑わった。

山や森の大切さを理解し、行動する人の輪を拡げていくきっかけができた1日となった。

協賛：

三原市緑化推進委員会、三原商工会議所、脚心会連合会



▲主催者あいさつ 来賓一同

記録者：運営委員長 櫻井 充弘



▲ミスやっさ激励参加



▲緑の少年団山の日宣言



▲安全祈願(どんぐりころころ)



▲ちゅーピー君も応援に参加してくれました

里山の手入れ

■参加人数：150人

【プログラム状況】

メインプログラムの「里山の手入れ」には150人の参加があった。参加者は6班に分れて班長の指示で伐採された枯れ松をチップパー粉碎するため集積場所まで運び出した。



▲班長さんの紹介



▲切った木を運び出しました



▲枯れ松の伐採処理 (安全作業のお手本)



▶ チップパーで切った木はチップ処理しました。



記録者：運営委員長 櫻井 充弘

炭焼き体験コーナー

■参加人数：00人

【プログラム状況】

移動可能な炭焼き窯を使用して窯に炭になる木を建て込んだ。

バーベキューをしている子供たちが炭に興味をいだいて参加した。



▲移動式炭窯を利用して木炭にするため窯に材を詰め込みました

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

チェーンソーアート実演ショー

■参加人数：見学者多数

【プログラム状況】

チェーンソーアート実演コーナーではログビルダーの西田和弘さんをお迎えし、鯉の滝登りを製作してもらいました。また、実体験には1人の挑戦がありましたが、チェーンソーの扱いがとても難しかったそうです。



▲チェーンソーアート実演ショー

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

木工・クラフト体験コーナー

■参加人数：親子40組

【プログラム状況】



▲初めてノコヤカナ箱を使いました



▲親子でアイスやCDラックを作りました

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

丸太切り大会

■参加人数：80人

【プログラム状況】

親子で直径15cmのヒノキの丸太を切る速さを争う競技に挑戦してもらいました。

優勝者のタイムは17秒。とても早く切られました。子どもさんのタイムは約1分でした。勝利者賞は、山の日に合わせて高級ノコ・腰鎌としました。

多くの参加者があり大変好評をいただき無事終了しました。

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

森のネイチャーゲーム

■参加人数：20人

【プログラム状況】

森に入り「木のフィールドビンゴなど」で遊びながら里山を観察しました。

少人数でしたがじっくりと公園の自然を楽しみました。

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

魔法の風呂敷体験コーナー

■参加人数：多数

【プログラム状況】

はじめての参加です。日本のエコ文化として世界に知られている風呂敷の使い方など実際に風呂敷を何枚も使い包装してよし、持ち運びの用具(背負い袋)として工夫して使える方法など色々と参加者に体験してもらいました。非常に役立つ体験コーナーで好評でした。

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

森のコンサート

■参加人数：多数

【プログラム状況】

勇壮な備後君田太鼓の演奏やカラオケショー、ハワイアンダンスでお祭を盛り上げました。



▲勇壮な君田太鼓



▼緑の少年団 コンサートを楽しみました

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

行政・ボランティア紹介コーナー 協賛グループの展示即売会

■参加人数：多数

【プログラム状況】

ひろしま森づくり県民税やボランティア団体などの活動展示を行った。

あわせて協賛グループの展示即売会を行った。



▲ふるさと産品 出展状況



▲デュアスロン大会選手やご家族連れの参加があった▲

記録者：運営委員長 櫻井 充弘

ポニーと遊ぼう

■参加人数：多数

【プログラム状況】

小さな子馬は多くの子どもたちが乗ったり触れるなど大変好評でした。



▲ポニーと遊ぶ 子どもたち



記録者：運営委員長 櫻井 充弘

全体

■参加人数：110人

【プログラム状況】

第8回ひろしま「山の日」県民の集い庄原市サテライト会場は、6月7日、木々の緑はあくまでも濃く中国山地の山々が望める庄原市東城町塩原の「四季の森とうじょう」で行いました。

「四季の森とうじょう」は、1997(平成9)年、東城町が取得した産業廃棄物処理施設の建設がおこなわれていた森林約41haを、国の「生活環境保全林整備事業」によって6年の期間と事業費約8億円を整備されたものです。昨年に引き続き、2回目となる今年の庄原市サテライト会場は、「東城の森林(もり)で楽しもう!!」をテーマに身近な山への理解を促すプログラムを中心とした行事をおこないました。

楽しみな昼食は、食育インストラクター小林富子さんから初夏の山菜料理について指導をうけ、地元のお母さんグループ手作りの珍しい「ジョウボウ飯」と「山菜汁」を味わいました。

森の市(いち)では、山里の恵みを活かし、地元の猫地加工所(代表 大内敏子さん)の「かしわ餅」・「ほうこう餅」・「山菜おこわ」や、地元の(有)なんのう(代表 木村博介さん)が開発された「竹塩」が販売され好評でした。

東城を中心に庄原市民をはじめ遠く広島市から参加の皆さんには、快晴に恵まれた一日を、東城の森林(もり)で楽しんでいただけたものと思っています。



記録者:東城フォレスト2000 久岡 武美

グラウンドワーク(広葉樹林の手入れ)&森の散策

■参加人数：多数

【プログラム状況】

坂部広和東城町森林組合長をはじめ、各森林組合職員の指導によって、平成18年秋に植栽したイロハモミジやコナラなど広葉樹林の下刈り作業を行いました。手鎌で刈る人、長柄の鎌で刈る人、草刈機で能率よく刈る人などさまざまでしたが、怪我もなく刈り払いを行いました。

参加した親子は、植えた木の成長を楽しみに心地よい汗を流していました。

森の散策では、森林インストラクターの田丸猛さんたちから沿道の草花の説明を聞きなが歩道約1.1mを歩き、紫に色づいたクワの実を見つけて味わっていました。



記録者:東城フォレスト2000 久岡 武美

森の体験 草木染め・組み木

■参加人数：多数

【プログラム状況】

森の体験では、草木染めと木組み細工を行いました。草木染め体験は、帝釈峡工房主宰の久保田昭美さんの指導で化学染料では味わえないやわらかく落着きのあるハンカチをつくりました。

染めを重ね「予期しない色」との出会いに手作りの楽しみを味わっていました。

組み木は、新見組み木サークルの竹田慎一さんほかの指導で、電動糸鋸盤を使って「親子の動物の組み木」づくりに挑戦しました。

はじめは子どもたちが、糸鋸盤の正面に座ってゆっくり切り進めるなど、手ほどきを受けながら糸鋸を操っていましたが、次第に親御さんが本気になって熱中する光景が見受けられました。

記録者:東城フォレスト2000 久岡 武美

森のステージ 吹奏楽の演奏と比婆荒神神楽

■参加人数：多数

【プログラム状況】

地域での演奏活動に積極的に取り組み、毎年夏の県吹奏楽コンクールで上位に入賞する実力をもつ東城中学校1年生18人、2年生12人、3年生8人、計38人が参加して吹奏楽を演奏してくれました。青木博彦先生の指揮で奏でる吹奏楽の演奏に、参加者は感動し聞き入っていました。

また、横山邦和さんほか比婆荒神神楽社の皆さんには、国の重要無形民俗文化財に指定されている比婆荒神神楽の七座神事のうち「猿田彦の舞」と、国譲りの能のうち「大黒舞」を公演していただきました。打出の小槌をもって、いつもニコニコ顔の大黒さまの撒かれる福餅は、みんなに幸せをもたらされるといわれ、参加者は競って福餅を拾っていました。

記録者:東城フォレスト2000 久岡 武美

全体

■参加人数：約450人

【プログラム状況】

第8回ひろしま「山の日」県民の集い福山会場を6月7日(日)に、ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)にて開催しました。

今回での開催は3回目を迎えましたが、「山に親しみ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマとして若年から熟年まで幅広く呼びかけをし、当日の参加者は450人余りになりました。山や森の大切さを理解し、行動する県民の輪を広げる目的は達成出来たと確信しています。

開会式では、縄文行運営委員長の開会宣言、内海康仁福山会場実行委員長による開会挨拶に続き、福山市経済環境局経済部農政課長 石岡徹様の祝辞と続きました。

オープニングセレモニーでは、福山市立女子短期大学 保育科ボランティア「ショコラ」によるダンスが披露され、会場は一際賑わいを見せていました。

続いて、各イベントがスタートし、それぞれがお目当ての会場に集合してプログラムを楽しみました。

メイン会場である「山のグラウンドワーク」へは、350人余りの参加者(午後よりの上級者向けを含め)となり、東部森林組合関係者、福山山岳会メンバーにより里山の草刈りや樹木の手入れ作業を付添って指導して頂きました。また、D歩道周辺ではグリーンラインを愛する会によりチップ機による実演もして頂きました。

また、福山山岳会が設けた、かしわ餅作り体験コーナーには多くの参加者が有り、自分で作ったかしわ餅を食べていました。

広島県ネイチャーゲーム協会による里山をフィールドに自然体験ゲームを行われました。

テント会場では、ワークショップ体験をごみ5R推進本舗他の団体が中心となり環境関連商品販売(竹炭、木の実工作他)、マイ箸作り、木こり体験などを催し、会を盛り上げて頂きました。

最後に、当日は素晴らしい天気にも恵まれ、運営へご協力頂いた多くのスタッフ・団体関係者の方に支えられ無事閉会を迎えられたことに感謝致します。

広島県の面積の70%を占める山。全国に誇る里山を有するわが県。このイベントを通じ、山や森の大切さを理解し、行動する人の輪が拡げられて行きたいと思えます。



挨拶する内海実行委員長

記録者:福山会場事務局 赤木 茂



▲開会式の様子



「山の日」宣言▶

登山道整備及びかしわ餅手づくり体験

■参加人数：多数

【プログラム状況】

6月7日(日)晴天。開会式後に、今回のメイン行事である「山のグラウンドワーク」へ総勢25人の会員が、東部森林組合の作業指導の補助として参加しました。

一般参加者への植樹・除伐他への協力を積極的に行い、ほどよい汗をかき充実した1日を過ごすことが出来ました。

更に午後からは、山の手入れの上級者向けへの参加をしました。また、今回新たな取組みとして「かしわ餅作り体験コーナー」を設けました。参加者自身がかしわ餅を作り、食すこともあり、かなりの好評で用意分は完食となりました。

なお、当日ご協力を頂いた山岳会のメンバーの人全員に感謝です。有難う御座いました。

来年も、更なる参加人数を増やし、会を盛り上げることを全員で確認しました。



記録者:福山山岳会 山内 充人

里山の手入れ(D歩道)

■参加人数：350人

【プログラム状況】

10時30分頃より、参加者を例年通り10班のグループに分け、会場の南側の山林遊歩道(D歩道近辺)カマノゴ等を使い草刈・除伐・枯木などの手入れを指導しました。一部の幹や枝はチップ機によりチップにしました。また、一昨年植栽した広島スーパーマツに施肥を行う作業も併せてしました。

参加者全員が指導や注意事項を守って作業への協力をしてもらった事も有り、ケガや事故等もなく林内を整理することが出来ました。



記録者:広島県東部森林組合 佐藤 元則

チップーシュレッダーの実演

■参加人数：多数

【プログラム状況】

午前10時半頃から、山のグラウンドワークによって除伐された枝などを、チップー機でチップ化しました。出来たチップは畑の土と混ぜたり堆肥にしたりいろいろな用途があり、使ってみたいといわれる希望者には配布をしました。またテント内では、パネル展示を開催し日頃の会の活動報告をしました。同時に竹炭・エコグッズ関連商品(古新聞紙を使ったコサージュ)の展示販売も開催し多くの人に関心と興味を持って頂きました。



記録者:グリーンラインを愛する会 前原 江美子

森のネイチャーゲーム

■参加人数：21人

【プログラム状況】

汗ばむ陽気の中、木陰に腰掛けて最初の活動はヒントから生き物を推理しました。1つずつヒントを聞きながら分かった時点で鼻に人差し指を当てます。楽しい雰囲気の中、生きものの特徴や生態について楽しく学びました。

次は宝ものリストにある木の実や抜け殻、大きな落ち葉など自然の中にある宝物を探します。宝物を見つけるたびに子ども達からは大きな歓声があがりました。参加者全員で集めた宝物を一つ一つ紹介しながらそれぞれの発見の喜びや感動をわかちあいました。

最後は聴診器で木の中から聞こえてくる音に耳を傾けました。親子で自分やお互いの心臓の音を聴いてからそっと静かに木に聴診器を当ててみます。中から「サー」とか「ザー」という不思議な音が聞こえてきます。木の種類や同じ木でも場所によって聞こえる音が違うようです。

みんな夢中になって色々な木の音を聴診器で聴きながら木の中で起きていること、木と周りのものとのつながりに思いを馳せながら次第に木と仲良くなっていきました。

五感を通して自然を感じる中、それまで眠っていた感覚が目覚めてきた事でたくさんの発見や気づきが生まれたようです。ゆったりとした時間の流れの中で自然とふれあいながら和らいでいく参加者の表情が印象的なひと時でした。



▲私は誰



▲どんな宝物がある

記録者:広島県ネイチャーゲーム協会 小笠原 康成治

ボランティア団体の展示・体験プログラム

■参加人数：多数

【プログラム状況】

- 工作:マイ箸作り、森(木の実)の工作
- 展示:ペレットストーブ、ハイムーン先生のエコ漫画ギャラリー、さそりの標本、ゴミ5R推進本舗の活動紹介、「エコロジンα」の無料配布等
- 販売:「地球にやさしい暮らし方ガイドⅡ」、紫ピーナツ、瀬戸内海の地パン、マイ箸等
- 参加団体:ゴミ5R推進本舗、平和建設、紫萌芽堂、エコローズ企画、木遊工房、グリーンラインを愛する会

展示ブースでは各ボランティア団体による各種催し物があり、ご家族で来場された方々に大変好評でした。特に、今ブームとなっている「マイ箸作り」は、自分サイズに合わせて長さを決め、削る等して調整し、最後に胡桃オイルで仕上げ自分の箸が出来たことに感激していました。

また、自然を大切にする活動やエコロジーのことを、子供たちにも分かりやすく漫画等で紹介したこともあり、参加者より関係者に対し質問や談笑している姿を多く見かけました。「さそりの標本」のコーナーでは、紙で作った模擬の「さそり」に輪ゴムを仕掛け、触った人を驚かせては参加者の笑い声が絶えませんでした。



記録者:ゴミ5R推進本舗 落合 真月

福山市立女子短期大学

■参加人数：多数

【プログラム状況】

今回総勢22人による参加となり、最初は全員がメインステージに横並びとなり「ショコラダンス」を披露しました。2回目は、山の日への参加者の中に混じり一緒にダンスをし、山の手入れに向かう事前体操として少しばかりの汗をかいてもらいました。

今回披露したダンスは、手話を絡めた踊りであり、ひとつひとつの言葉を手話で表現することに参加者も興味を持たれ、小さな子供たちも、目を輝かせながら私達の踊りを見てくれました。

すがすがしい晴天の下、私達にとっても良い体験発表の場となり大変感謝しています。



記録者:福山市立女子短期大学 大庭 三枝

三次市サテライト会場 | 清高の丘

全体

■参加人数：約215人

【プログラム状況】

ひろしま「山の日」県民の集い三次市サテライト会場は、6月6日(土)に「清高(せいいたか)の丘」で開催しました。

午前中は、これまで継続して手入れを行ってきた清高の丘内の整備を行いました。子どもを含む約50人の参加者が、指導員のサポートを受けながら、竹林の伐採や、ヒノキの枝打ち、チップャー機による竹のチップ化、薪割り機を使った薪づくりなど行いました。

また、午前午後を通して、会場内では「森で遊ぼう」と題し、自然散策のほか、伐採した竹を使った竹ぼっくりや水鉄砲、竹とんぼづくりコーナーやツリークライミング、木材当てゲーム、カブトムシの幼虫探しなど、森の中での体験を親子で楽しんでもらうことができました。

地元の方手作りの五穀米のおむすびと山菜のかきあげ、柏餅の販売ブースもあり、里山の美味しい恵みを味わい、満腹になりました。

木々に囲まれた清高の丘での「山の日」は、ゆっくりと流れる時間の中で自然とふれ合うことができ、心おだやかな1日を過ごすことができました。



記録者:実行委員会事務局 三次市農政課 高岡



実行委員会(全体)

■アドバイザー	森本 竹一 中越 信和 梶保 節男 池田 博行 室野 純子 仙田 信吾	元・吉和村村長 広島大学大学院 国際協力研究科 教授 広島県農林水産局 森林保全課 課長 (社)広島県みどり推進機構 事務局長 中国新聞企画サービス株式会社 中国放送(株) 取締役 テレビ営業局 局長
■実行委員長	堀川 保幸	中国木材株式会社 代表取締役社長
■副委員長	伊藤 利彦 内海 康仁 瀬川 千代子 京才 昭 前垣 壽男 箕田 英紀	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事 光和物産株式会社 代表取締役社長 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表 広島県山岳連盟 会長 西条・山と水の環境機構 理事 三次市酒屋地区自治連合会 会長、エコパークの森づくり 実行副委員長 三原市商工会議所 副会頭 森のバイオマス研究会 監事
■委員	福島 偉人 八谷 文策 赤木 茂 秋山 浩三 石井 英太郎 井上 年光 上本 真稔 宇山 茂之 江川 和謙 大西 弘 小野 寛 鎌田 博 坂田 広和 櫻井 充弘 城市 隆利 竹田 幸雄 玉理 正博 田中 実 縄 敏行 野島 信隆 葉名 康弘 廣瀬 健 福馬 不二男 藤原 晴彦 正本 良忠 宮岡 泰久 山田 雅昭	光和物産株式会社 取締役総務部長 広島県ネイチャーゲーム協会 事務局長 西条・山と水の環境機構 運営委員 阿品の森サポータークラブ 生協ひろしま 広島県山岳連盟 理事 普及部 副部長 広島県森林インストラクター連絡協議会 事務局長 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長 エコロジー研究会ひろしま 広島市森林公園(第一ビルサービス森林公園 園長) 森のバイオマス研究会 中央森林公園常務理事 ひろしまと樹の会 事務局長 財団法人オイスカ広島支局 財団法人オイスカ広島支局 事務局長 中国木材株式会社 人事・総務部 副部長 中国木材株式会社 人事・総務部 総務課 係長 福山青年会議所 副理事長 広島県山岳連盟 副会長 普及部 部長 財団法人オイスカ広島支局 広島県グリーンサポート連絡会 会長 サポート・トレッキング・グループ 三次市産業部 農政課 課長 広島県緑化センター管理責任者 サポート・トレッキング・グループ 会長 広島県山岳連盟 理事長
■監事	梅田 斉	(財)もみのき森林公園協会 事務局長
■事務局(委員兼任)	総合調整 兼森志郎 総合調整 畝崎辰登	(社)日本山岳会広島支部 総務委員長 西条・山と水の環境機構

実行委員会(メイン・サテライト会場)

■呉市メイン会場【グリーンヒル郷原】	■実行委員長 堀川 保幸 ■運営委員長 宮岡 泰久 ■事務局 玉理 正博	中国木材株式会社 代表取締役社長 サポート・トレッキング・グループ 会長 中国木材株式会社 人事・総務部 副部長
■アドバイザー	鷹下 真 増本 寛治	広島県西部農林水産事務所 農林事業所林務課 課長 呉市産業部 参事

脇田 典康 鎌本 浩一 久保田 幸治 神垣 義和 荒木 俊一	呉市産業部 農林振興課 課長 呉市産業部 農林振興課 係長 呉市産業部 農林振興課 主査 呉市産業部 農林振興課 主事 呉市農業振興センター 所長
--	---

■東広島市サテライト会場【憩いの森公園】	■実行委員長 前垣 壽男 ■副実行委員長 石井 英太郎 ■運営委員長 島 靖英 ■副運営委員長 高下 義彦 ■事務局 船本 昌義	西条・山と水の環境機構 理事 西条・山と水の環境機構 運営委員 西条・山と水の環境機構 運営委員 賀茂地方森林組合 西条・山と水の環境機構
----------------------	---	---

■廿日市サテライト会場【もみのき森林公園】	■実行委員長 平本 勝吉 ■副実行委員長 大久保 正人 ■運営委員長 大西 弘 ■事務局 梅田 斉	(財)もみのき森林公園協会 理事長 阿品の森サポータークラブ 会長 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長 (財)もみのき森林公園協会 事務局長
-----------------------	--	---

■広島市サテライト会場【広島市森林公園】	■実行委員長 伊藤 利彦 ■副実行委員長 鎌田 博 ■運営委員長 見勢井 誠 ■副運営委員長 桑原 清二 ■事務局 桑田 莊一郎	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 広島市森林公園(第1ビルサービス森林公園園長) もりメイト倶楽部Hiroshima 会長 フォレストクラブ森守 会長 広島市森林公園
----------------------	---	---

■広島市サテライト会場【広島県緑化センター】	■実行委員長 正本 良忠 ■副実行委員長 小田 芳生 ■運営委員長 廣瀬 健 ■副運営委員長 前山 敏彦	広島県緑化センター 指定管理者 広島県緑化センター 広島県グリーンサポート連絡会 ふれあい湧
------------------------	---	---

■三原市サテライト会場【中央森林公園】	■実行委員長 福島 偉人 ■副実行委員長 渡邊 文雄 小川 健太郎 ■運営委員長 片山 由行 ■副運営委員長 川口 洋海 岡田 利文 ■事務局 櫻井 充弘	三原商工会議所 副会頭 三原市 経済部長 尾三地方森林組合 代表理事 組合長 NPO法人森のおさるさん 三原市 経済部次長 三原市シルバー人材センター 本郷支所長 中央森林公園協会 常務理事兼事務局長
---------------------	--	--

■庄原市サテライト会場【四季の森とうじょう】	■実行委員長 八谷 文策 ■副実行委員長 坂部 広和 ■運営委員長 久岡 武美 ■副運営委員長 牧田 繁喜 ■事務局 和田 博之	NPO法人森のバイオマス研究会 監事 東城町森林組合 代表理事 組合長 東城フォレスト2000 会長 東城フォレスト2000 副会長 東城フォレスト2000
------------------------	---	--

■福山市サテライト会場【ふくやまふれ愛ランド】	■実行委員長 内海 康仁 ■副実行委員長 山内 充人 松尾 光員 ■運営委員長 縄 敏行 ■副運営委員長 萩原 康博 ■事務局 赤木 茂	光和物産株式会社 代表取締役社長 福山山岳会 会長 福山ロータリークラブ社会奉仕委員長 福山青年会議所 副理事長 福山青年会議所 常任理事 光和物産株式会社 取締役総務部長
-------------------------	--	---

■三次市サテライト会場【清高の丘】	■実行委員長 箕田 英紀 ■事務局 藤原 晴彦	三次市酒屋地区自治連合会 会長 三次市産業部 農政課 課長
-------------------	----------------------------------	----------------------------------

協力者・団体等

- 呉市メイン会場【グリーンヒル郷原】
 - 登山道整備・清掃/広島県山岳連盟
 - 前夜祭/広島県山岳連盟
 - 山のグラウンドワーク/実行委員会、サポート・トレッキング・グループ、パブコック日立エコークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会、黒瀬町森林組合
 - 初心者のための登山教室/(社)日本山岳会広島支部
 - 森のつみ木広場/(財)オイスカ広島支局
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 国産材の木組みの展示/中国木材
 - 展示・体験プログラム/大和重工、神沢精工、ひろしま「山の日」県民の集い、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター

- 東広島市サテライト会場【憩いの森公園】
 - 山のグラウンドワーク/西条・山と水の環境機構、賀茂地方森林組合、(財)東光会、シャープグリーンクラブ、日興苑遊歩会、東広島ロータリークラブ、西条酒造協会、フジ・エコテック
 - 山のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 森の野鳥観察会/東広島市の野鳥と自然に親しむ会
 - おばあちゃんのつくる自然派虫除けスプレー/憩いの森ハーブ研究会
 - 賀茂大地農産物の紹介と農産物の販売/JA広島中央
 - ベレットストーブの実演・展示、バイオマスボイラーのパネル展示/ヤマノイ(株)
 - 山仕事の道具屋さん-親子で丸太切りに挑戦-/賀茂地方森林組合
 - 環境展示会/シャープグリーンクラブ
 - 紹介します、西条農業高校/西条農業高等学校

- 廿日市市サテライト会場【もみのき森林公園】
 - 「もみのき湿原」の保全と「さくらの森」を再生しよう/阿品の森サポータークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 親子でピザを楽しむ会/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 森のクラフト教室/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 自然観察指導員と歩く「新緑のもみのき森林公園」/もみのき森林公園
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 森の恵みを捕まえよう・魚のつかみ取り/もみのき森林公園

- 広島市サテライト会場【広島市森林公園】
 - 森林公園内の山の手入れ/もりメイト倶楽部Hiroshima
 - 親子森林「モリアオガエル」観察/昆虫館友の会
 - グリーンアドベンチャー/広島市森林公園、フォレストクラブ森守
 - 親子でテーブルを作ろう/市民参加の森林づくり実行委員会、もりメイト倶楽部Hiroshima
 - 森林公園内の自然観察会/東区みどりのボランティアの会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 北広島町産直市/舞口DIC千代田

- 広島市サテライト会場【広島県緑化センター】
 - 葉いの広場の記念植樹、広場周辺除伐/ふれあい湧 他
 - クイズラリー/広島県緑化センター
 - 寄せ植え教室と草花プレゼント/みずえ緑地
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 丸太切り体験/広島県グリーンサポート連絡会

- 三原市サテライト会場【中央森林公園】
 - 里山の手入れ/ひろしま人と樹の会、NPO法人森のおさるさん、帝人(株)三原事業所、緑と水を守る会、尾三地方森林組合、シャープ、三原市かんきょうかいぎ浮城、なしわ緑の少年団他
 - 炭焼き体験/三原市シルバーセンター
 - クラフト体験/瀬戸内フォレスト21
 - 木工教室/広島県林業研究グループ
 - チェーンソー・アート実演ショー/西田和弘
 - 魔法の風呂敷体験/竹の駅
 - 丸太切り大会/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会

- 庄原市サテライト会場【四季の森とうじょう】
 - 森のグラウンドワーク(広葉樹の手入れ)/東城町森林組合
 - 森の初夏を味わう/東城フォレスト2000
 - 森で体験しよう/実行委員会
 - 森のステージを楽しもう/東城中学校吹奏楽部、比婆荒神楽
 - 森の市/実行委員会

- 福山市サテライト会場【ふくやまふれ愛ランド】
 - 里山の手入れ/広島県東部森林組合、福山山岳会、グリーンラインを愛する会、ごみ5R推進本舗
 - 登山道整備/福山山岳会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 里山の幸・かしわ餅手づくり体験/福山山岳会
 - マイ管工作/ごみ5R推進本舗
 - チッパー・シュレッダーの実演/グリーンラインを愛する会
 - 活動紹介展示/ごみ5R推進本舗、福山山岳会、平和建設、紫南堂、エコローズ企画、木遊工房、グリーンラインを愛する会
 - ダンス紹介/福山市立女子短期大学

- 三次市サテライト会場【清高の丘】
 - みんなで森の手入れ/実行委員会
 - 森であそぼう/実行委員会

注)以上、事務局にて確認している団体・グループについて掲載いたしました。

第8回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

■発行日	2009年7月7日
■発行	第8回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
■編集	実行委員会事務局
■事務局	〒730-0041 広島県広島市中区小町2-28-703 担当:畝崎 TEL(082)909-7662 FAX(082)248-3586 e-mail:info@yamanohi.com

今年も多くの団体及び関係の方々の協働(コラボレーション)により、事業を行うことができました。心より感謝申し上げます。